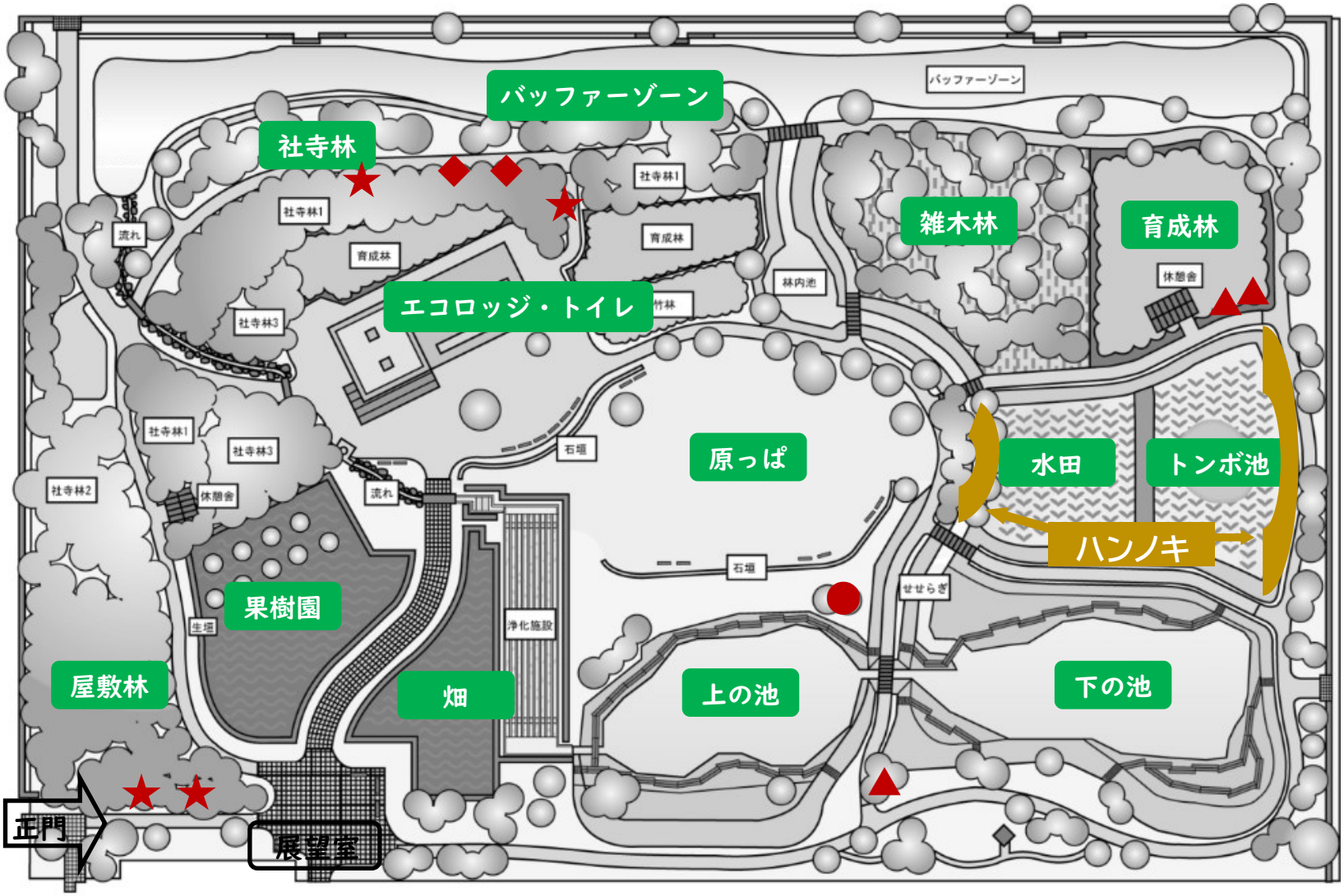
生態園マップ～2022冬編～

季節のできごと

・日陰で大きな葉をつける別名「天狗の羽団扇」のヤツデ。12月頃まで白く鞠状の花を咲かせます。

・ヒヨドリ、オナガ、ムクドリ、ツグミなどたくさんの鳥が「赤い実」をついばみにやってきます。

※園内工事中の箇所があります。お気をつけてお散歩をお楽しみください。



赤く熟す実

アオキ

冬は赤く熟す実が多い季節です。園内には、アオキ（★）、ヤブコウジ（◆）、ノイバラ（▲）、クロガネモチ（●）などがみられます。実が赤いのは視覚の鋭い鳥に見つけてもらい食べてもらうため。そして鳥が移動先で、フンと共に排泄した種子を芽吹かせるため。赤い実は、鳥にとっても餌の少ない冬場の貴重な食料。このように鳥と植物、異なる種別がお互いにメリットを得る関係を相利共生といいます。

ＣＥＳＳチャンネル（Youtube）

生態園についても配信中

ハンノキ

ハンノキは湿地や湿原などで生育する、高さ10～20mになる落葉高木です。生態園には、ハンノキがたくさん植えられています。これは、埼玉県の蝶である「ミドリシジミ」をよぶためです。ミドリシジミの幼虫は、ハンノキの葉を食べて成長します。ハンノキは、関東地方では田んぼの境を示す目印や、収穫後のイネを干すはざ掛け用として植えられていましたが、水田や沼地が減ったことで、ハンノキも減り、ミドリシジミの数も少なくなってしまいました。

ハンノキは、寒い冬の間に花を咲かせます。だらりとさがった雄花の花粉が雌花に運ばれ、次の年の秋に小さい松ぼっくりのような実（果穂）ができ、種を落とします。

通称「ゼフィルス（ギリシャ神話の西風の神に由来）」と名付けられた蝶のグループのミドリシジミ。梅雨のころに見られる美しい蝶です。長年の努力が実ったのか、2020年から生態園でも見かけるようになりました。

初夏から夏の頃

秋

ハンノキの雄花

冬

雌雄同株。雌花は雄花のすぐ下に付き、早春に開花

12～1月頃

果穂は木質化して翌年まで残る

1月下旬～2月頃

枝の先端に下垂する雄花

埼玉県の蝶

「ミドリシジミ」

冬の鳥

生態園にはたくさんの鳥がやってきます。鳴き声が聴こえたら、お空や、樹木を見渡してみませんか。またバッファーゾーンや下の池のアシ付近を仲良くお散歩しているカルガモの親子に、ちょっと癒されてみませんか。

モズ（百舌鳥）

モズはムクドリくらいの大きさで、県内でも農村部などでは普通に見られます。獲物を小枝などに刺す習性もあり「モズの早贄」と呼ばれ、生態園のカラタチの枝でも、冬の間、時折見られます。

カルガモ

冬になると、一番多く見かけるカモです。雌雄同色。全身褐色で、白っぽい顔をしています。くちばしは黒く、先は黄色。目と頬の部分に黒い線があるのも特徴です。

コゲラ

国内では最も小さなキツツキの仲間。冬の時期は、シジュウカラなどのカラ類と行動を共にしています。「ギー、ギー」という鳴き声が聴こえたら、近くの樹木に止まっているはずです。